

求める会ニューズ No. 961

1月全体会報告
1月16日(水) 10:00~12:30

検討事項

1. 求める会のこれからを考えるにあたって 提携について

消費者は提携について知らず、安全な食べ物を手に入れられれば満足、生産者は生活が安定すればそれでいいと考えるようになってきている。求める会はいずれは閉じなくてはならないが、閉じるにあたって、提携についてどう考え、次世代にどう伝えていくのか、会員の皆さんの意見を聞きたい(大野代表)。

(主な意見) ・有機農業が続けられるのは消費者と生産者の提携があつてこそ。求める会はいったん閉め、新たに提携を次世代に伝える活動を考える会を作ってはどうか。 ・会を閉じるにあたっては生産者をどうするのがいちばん大きな問題だ。 ・部員をやってくれる人がいつまで続くのか不安。提携を伝えるのは難しい。私たちと違ったやり方が必要なのでは? ・実務を担当する人が大変だと思う。 ・会をいつ閉じるか決めて、具体的にやるべき作業のスケジュールを作ってもいいのではないか。 ・部会で議論した内容が一般会員に伝わっていない。もう少し話し合う時間がほしい。

2. 2019年2月の日本有機農業研究会全国大会への宿泊参加者の負担を軽くするために各部の予算の未消化の金額を補助にまわす案について

4月には柿木村訪問が予定されており、出費が続くのでできるだけ双方への補助金を増やして会員の負担を減らし参加者

を増やしたい。(大野代表)

例年、日有研全国大会参加者へ交通費補助金として2万円を計上、今年度各部活動費の未消化分3万円、計5万円の補助金が出費可能。検討の結果、2万円を交通費として参加者に一律配分、3万円を宿泊参加者に一律配分することになった。16日現在、宿泊参加希望者は9名。

報告事項

【生産者担当】

*野菜 1月のコンテナ数 大コンテナ85、小コンテナ281 計366 個配10

*畑のようす 葉物、根菜ともたくさん収穫された。冬初めの温暖な気温も関係。

(会員の要望) サラダ水菜ばかり来るが、従来の水菜もほしい。

市有研との定例会合 2月15日(金)
13:00~ 神戸学生青年センター会議室D

*卵 年末にヒナを入れたがまだ産卵せず、数が足りないので足立さんに助けてもらっている。2月半ば過ぎに40羽の廃鶏あり。木・金コースの第3週に配送予定。

*大豆 高木さんの大豆が今年は不作で出荷できない。北海道北見の秋葉農園の自然栽培の大豆を配送。1kg 980円。

*果物 ミカン7回目は途中までしか配送できず。6回目の注文がなかった人優先。

【会員担当】1月の会員数 213人

*冬の地域集会 〈東地区〉3月2日(土)
〈中地区〉3月1日(金) 〈西地区〉3月9日(土)(詳細は4面に)

*2月18日(月)「おいしいね!」が育てる元気Ⅲ」企画の味噌づくり 学生センターサロン室(配布のチラシ参照)

【事業部担当】全体会後の即売：宮島食品豆腐類、ワーキングたんぱパン、渡辺水産塩干もの

【広報・庶務担当】ニュース 2月号の印刷＝2月23日（水）10：30～

【学習研究担当】大豆畑トラストの高木さんの畑は不作。新規生産者の永菅さんの畑で作ったものを配布（希望した量が配布できるかは不明）

【渉外担当】・2月23日（土）～24日（日）「全国有機農業の集い」2019in琵琶湖 会場：アヤハレークサイドホテル（大津市におの浜）

◆2月部会 2月13日（水）10：00～

全体会 2月20日（水）10：00～ 司会：今田、当番：岡部、明松、記録：小原

食料環境セミナー報告
「種子法廃止—多国籍企業に
明け渡す食料主権」
食政策センター・ビジョン21
代表 安田 節子 さん
11月28日（水）10：30～12：00

スーパー等で売られている油はなぜあんなに安いのか。原材料名を見ると食用菜種油、食用大豆油と書いてある。アメリカで生産される大豆の9割が遺伝子組み換え（GM）大豆。除草剤ラウンドアップをかけても枯れない遺伝子を組み込まれた大豆。使い続けて草が耐性をもちラウンドアップの使用が増える。収穫時にも刈り取りやすいようにラウンドアップをかける。大豆にはラウンドアップが残留する。ラウンドアップは低濃度でも長くとり続けると癌、出生異常、脂肪肝などのほか、子供の神経に作用することが分かってきた。多くの国でGM作物の輸入を禁止し、ラウンドアップを規制するなか、日本ではTPP批准後GM認可が拡大し、ラウンドアップ残留基準も緩和している。ほかの国では売れない大豆が日本にどんどん入ってくる。油が安くなる。国民の安全、健康保護よりも自動車等輸出企業の利益が優先されている。

戦後から公的機関で、地域にあった優良品種をうみだし守り、農家に低価格で供給してきた主要農作物（米、麦、大豆）

種子法が、たった12時間の議論で今年3月廃止された。TPP日米合意で設置された規制改革推進会議の提言をうけたものだ。アメリカに本拠をおく、もとは農薬会社の多国籍種子企業が、GM作物などで特許をとり、化学肥料、農薬とセットで種を売るビジネスを展開している。種子法を廃止することにより安い公的種子がなくなるとビジネスは有利にすすむ。野菜はすでにその仕組みに組み込まれているが、主要穀物まで企業にゆだねてはいけない。

EUをはじめ主要先進国では例外として主要穀物は公共品種があり、自家採種が当たり前だ。ところが種子法を廃止した日本は、このままでは安い公的品種を失い、自家採種もできなくなり、企業の登録種や特許種子を買うことになる。

そもそも長い歴史の中で育てられてきた生物の種に特許をとり、私有化し、利益を得てもいいのだろうか。今、自治体独自で公的種子供給体制を守ろうという県条例の制定が呼びかけられている。埼玉、新潟、兵庫、富山、山形の5県で条例が制定された。北海道、長野県も準備中。日本の農家、日本の食料を守るため、もう一度種子法を復活させたい。GMの国内生産はいらない。食品すべてに原料の表示を。生物特許もノー。

（西山G 岡 和美）

大豆畑収穫祭に行きました

11月25日、今年から生産者として参加の永菅さんの畑（神崎郡市川町）での大豆の収穫祭。タネ播きに参加できなかった私としては初めての市川町、姫路から播但線で約1時間、西宮北口を6時半に出て甘地駅着9時。市島に比べ遠く感じました。



求める会から参加した飛田、六渡、池田の3人は台所班だったので畑には行かず畑の様子はわからないままに野菜を切ったり洗ったりしておりました。設備の整った与戸の公民館とは違い市川町文化センターの工作室での調理は電気釜から包丁、鍋、箸の小物に至るまで永菅さんや姫路有機の会の山内さんが持参。戸惑うことが多かったですがなんとか湯豆腐の用意ができた。

せっかくだから現地も見ようと畑に行き集合写真に参加。寒かったので早々に戻りました。

食事の前にそれぞれ大豆を何本採ったかの報告があり、皆さんの頑張りに拍手。いままで大豆が何本植えられているかを数えたことはなかったと気付きました。棚田米のご飯や山内さん持参の箸休め、いろいろが美味しくて満足のお昼ご飯でした。

大豆を作るのは初めてという永菅さんは高木さんのアドバイスもあり、うまくできたと喜んでいましたが、長年大豆を作り続けてきた高木さんの畑では今まで経験したことのない天候不順や台風により大幅な収穫量減となりそうだとのこと。大豆畑トラストにかかわるようになって、農業は土地の状態や天候など人間の努力が及ばない要素でこんなに違うのかと改めて感じています。

(松並G・学習研究班 池田 真知子)

今年もお味噌を作りましょう

材料：大豆 1キロ、麴 2キロ、塩 500g 板酒粕 3枚位

用意する物：(熱湯で消毒しておく)・容器(甕・ホーロー容器等) ガーゼか晒(容器の面積より大きめの物) 1枚、焼酎、ミンサーかフードプロセッサーかすり鉢とすりこぎ)

作り方：① 麴が届いたら、塩とよく混ぜておく(発酵を止める)。

② 大豆をきれいに洗い、一晩水につけてふやかす。

指でつまんで、潰れるくらいまで柔らかく煮る。

③ 煮えたらザルにあげるが、この時煮汁はボールなどで受けておく。

④ 大豆がまだ温かいうちに手早く潰す。

⑤ ここに混ぜておいた塩・麴(①)を加えダマにならないようによく混ぜる。固さは煮汁で調節し、硬めの味噌くらいにする。

⑥ それをボール状に丸め、容器に叩きつけるように入れていき、空気の入らないように詰めていく。

⑦ 詰め終わったら、上を平にし、ガーゼか晒を被せ、その上に酒粕を蓋をするように敷詰め、空気が入らないようにする。

⑧ 容器の内側を焼酎で拭いておく(カビがきにくい)。

⑨ ラップで蓋をし、さらに新聞紙などで蓋をし、冷暗所に保存する。

2月のカレンダー



2月 13日 (水) 部会
 2月 20日 (水) 全体会
 2月 17日 (日) 食料環境セミナー
 2月 20日 (水) 共同購入申込締切日
 自動引き落とし日
 2月 23・24日 (土・日) 全国有機農業の
 集い 2019 in 琵琶湖

2月全体会議題

- ・ 求める会の今後の運営体制について
- ・ 次期代表と部員の選出について

“京村牧場と柿木村を訪ねる旅”

日程：4月1日(月)～4月2日(火)
 行程：1日目 神戸駅出発 7:30
 京村牧場、柿木村
 2日目 岩国錦帯橋
 三宮周辺着 18:00頃
 宿泊先：柿木村の2軒の旅館に分宿
 参加費：一人 20,000円
 申込方法：同封の申込書に必要事項を記入
 の上、求める会に FAX または提出。(旅行
 保険に加入する為、生年月日も記入が必要)
 申込締切：2月20日(水)



冬の地域集会

生産者が来られます。是非ご参加ください

	日時	会場	連絡先 / 生産者
東地区 (宝塚・西宮・尼崎・ 芦屋)	3月2日(土) 10:00～12:00	西宮公民館401号室 (阪急西宮北口駅下車 南改札口より徒歩3分 プレラにしのみや4F)	今田 橋本さん
中地区 (東灘・灘・中央・兵 庫・長田)	3月1日(金) 10:00～12:00	神戸学生青年センター 和室D (阪急六甲駅下 車 北へ徒歩3分)	小浦 一色さん
西地区 (須磨・西区・北区・垂 水・明石・加古川・高砂))	3月9日(土) 10:00～12:00	アスパア明石8F 802 学習室 (JR明石駅下 車 東南へ徒歩3分)	村川 橋本さん

食料環境セミナー

「ドキュメンタリー映画『種子－みんなのもの？それとも企業の所有物？』」
 種を守って、有機農業を広げよう！

2019年2月17日(日) 13:00～17:00

会場：神戸学生青年センター・ホール

- 1部 13:00～14:00 挨拶・趣旨説明・たねの映画上映会
- 2部 14:00～15:30 講演/種の現状と課題と対策 印鑰智哉さん
 15:30～17:00 規格外農産物を食べて個性を感じよう！
- 3部 17:00～20:00 野菜薬膳料理の交流会 料理人：西崎憲一さん

主催：NPO法人兵庫県有機農業研究会

共催：神戸学生青年センター

協力：橋本有機農園、タベモノガタリ

お問い合わせ/お申込み： TEL090-2359-1831

hyougokenyukinougyo@yahoo.co.jp

【参加費】 1部 1000円

2部 1000円

3部 3500円

1～3部すべて参加 5000円

